

JCI IWAKIISHIKAWA
2023

謹賀新年

2023年度スローガン

苦中作楽

—「今」為すべきことを為し、「今」を全力で楽しもう!!!—

基本理念

「今」為すべきことを為し、笑顔あふれる未来へ繋げよう

基本方針

会員大拡大を進め、持続可能な組織へ昇華させる

子どもたちの未来創造に寄与する

めざすべき将来を描き、持続可能な地域を創造する

多面的・多角的視点を強化する人財育成



2023年度 一般社団法人 いわき石川青年会議所 組織図



第43代理事長
塩澤 晃
(株)蓬田電子



直前理事長／事務局長
石井 清瑞
ルーフ石井(株)



専務理事
中村 嘉仁
(株)サンキュー薬局 鏡石店



副理事長／福島ブロック協議会幹事
和知 勇希
(株)和知鐵工所



23年度委員会委員／日本青年会議所副委員長
福島ブロック協議会委員
菊池 紳弥
ブルデシナル生命保険(株)



23年度委員会副委員長
國井 貴宏
福島民友新聞社石川支店



23年度委員会副委員長
白岩 祐樹
福島民報社石川支店



23年度委員会委員
佐藤 宏紀
(株)東邦銀行石川支店



23年度委員会委員補佐
福島ブロック協議会委員
矢内 孝史
(株)石川自動車教習所



外部監事
富山 正
(株)One NEW



外部監事
岡部 弘幸
(株)岡部商店 マツダオートザム石川



※図中の太字は理事メンバー

一般社団法人 いわき石川青年会議所



PRESIDENT MESSAGE

2023年度スローガン

苦中作楽 - 「今」為すべきことを為し、
「今」を全力で楽しもう!!! -

Akira Shiozawa

第43代 理事長 **塩澤 晃**

【はじめに】

一般社団法人いわき石川青年会議所は1981年の創立より長きにわたり地域の皆様に支えていただき、また諸先輩方の弛まぬご尽力のおかげで43年を迎え、次の周年である45周年が近づいております。歴代の理事長の方々は、青年会議所が目指す「明るい豊かな社会」の実現を目指し、社会の進歩、時代の変化に柔軟に対応し、その時々求められる最善であると考えて運動・活動を行い、次代へ脈々と繋いできていただきました。

しかしながら2019年、中国に端を発した新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、それらすべてが一変してしまいました。世界がコロナ禍となり、社会や生活、人と人との在り方が変わりました。今までの常識が非常識となり、それが新しい日常となってしまいました。

我々青年会議所も新型コロナウイルス感染症の影響により、諸先輩から脈々と引き継いできた手法等を一から見直しせねばならず、また事業の延期や中止、会員拡大活動の停滞による人財不足が進行し、青年会議所の運動・活動が思うように出来ない状況は現在に至ります。

しかしながらコロナ禍も今年で4年目を迎え、少しずつではありますが、新型コロナウイルス感染症について、正しく理解が進みはじめ、コロナ禍における安全・安心が定義されるようになりました。感染拡大から沈静化のサイクルがおぼろげながら見えはじめ、コロナウイルスが変異していく中でも、予防の為の立ち振る舞いや感染時のリスクなど、感染症に対する人々の認識が少しずつ噛み合ってきたように感じております。

そんな「今」、必要なことは何かと考えたとき、私達はただ単純に、いしかわの地域に住まう子どもたちや住民の方々と共に心から笑い、共に楽しい時間を過ごしたい!という考えに至りました。まだまだ厳しい道程になるかもしれませんが、それを実現させるべく2023年度は「ナウコロナ」を意識し、今現在の感染拡大状況や感染のリスク等を熟考した上で、ただやみくもにリアルでの運動・活動を進めるのではなく安全・安心の上で、我々が想い願う「今」を、いしかわ地方に住まう方々が笑顔で共に楽しみ、共に成長できる青年会議所の運動・活動を目指していきます。

【青年会議所のイメージを払拭し、会員大拡大へ繋げる】

地域の青年経済人を青年会議所への入会の勧誘を行うと必ず言われる言葉があります。

「めんどくさそう」「大変そう」「つまらなそう」と。これはある意味で固着してしまっている考えなのかもしれませんし、我々の青年会議所の運動・活動が地域の方々のご理解をまだまだ得られていないという裏付けと言えるのかもしれません。2019年よりコロナ禍がはじまり、対面での人が集まることが敬遠され、我々青年会議所も熟考した中で、あえて地域の方々と物理的な距離を取り、リモートでのコミュニケーションに切り替え、青年会議所の運動・活動を行って参りました。

それ自体は悪いことだとは思いませんが、結果として会員拡大活動が停滞し、新入会員は2019年から現在まで2名のみにとどまっております。卒業するメンバーを考慮すれば、会員は減少しつづけ、我々はSDGs達成に向けた運動を推進している団体であるのに、持続が困難になってしまうという笑えない状況になりかねません。早急にこの状況を改善すべく、本年は青年会議所の負のイメージを払拭できるよう、本来の青年会議所とは何なのかを改めて知っていただく機会を作り、地域に住まう方々や青年経済人に向け、我々に新たに興味を持っていただけるような、負のイメージを払拭し、会員拡大へと繋がる事業を実施します。

明るい豊かな社会の実現には、我々自身が強く、地域にあり続ける団体でなければなりません。そのためにも、会員大拡大を全力で進め、持続可能な団体として地域へ貢献していきます。

【子どもたちの未来創造へ寄与する】

幼き頃、大人から「将来の夢は?」、「将来、何に成りたい?」と誰もが一度は聞かれたことがあると思います。自分はその当時、正直何も浮かばず、身近な友人が答えていた職業を真似して話を合わせていたことを覚えています。

時代は変わり、今の子どもたちはどうでしょう。スマートフォンやPCが普及し、知りたい情報は瞬時に手に入れられ、そういった中でYouTuberやeスポーツといった我々が子どもの時はあり得なかったものが、職業として存在しています。その情報も今の子どもたちのとても身近にあり影響を受け、将来成りたい

職業と話す子どもたちも多いように感じます。しかしそれはあくまで、身近にあるから。ということに尽きると考えます。

大人でさえ、未来を見通しづらい時代。子どもたちが、もし目先しか見えない状況の中にいるのであれば、我々が先陣を切って素晴らしい未来があるよと、暗い道を明るく照らし、導く役目を負うべきです。

本年は、子どもたちが将来本当になりたいと思える職業を見つけるきっかけとなり、幅広く仕事や社会についての「気づき」を得ることに寄与し、また先が見えない不確定な世だからこそ、自身で未来を選択し、強く生きていける力を得られるよう尽力します。

【事務局の在り方を見直し、地域へ貢献する】

我々の事務局がある会館創石館。県内のLOMの中でも珍しい持ち家であり、1997年に建てられその後、尊敬する先輩たちにより2018年に改修していただき、現在も我々いわき石川青年会議所の活動の拠点であり象徴として存在しております。この創石館は現在、我々青年会議所と他の団体様の事務局としてお貸ししているのみで、使用頻度も月1～3回程度であり、その他は使用がなく空いている状態です。この状態は以前より私自身、非常にもったいないと感じておりました。使用頻度が少ないまま、ただ空いているのであれば、それを解消し、もっと地域の方々へ利活用していただく、そういった有用性を創石館に見出すことはできないのだろうか？と常々考えておりました。

今こそ、その時だと考えます。このいしかわ地方には使用できるフリースペース自体はありますが、その数は多くはないように感じます。そこを改善し、また私たちいわき石川青年会議所について、いしかわ地方に住まう多くの方々へ改めて知っていただくことを目的とし、我々の会館である創石館を誰もが気軽に使用できるようなフリースペースを兼ね備えた施設へ改修していきたいと考えます。学生が講習会や試験勉強が行える場、地域の事業所様の会議や研修会の場、ヨガ

等の体験できる場、YouTuberがネット配信できる場、子を育てるお母さん達の集会の場等、といった様々な場として、気軽に活用できるような場所を提供できればと考えております。会館がただの事務局として在るのではなく、いしかわ郡内外問わず、人々の笑顔があふれる場へと変えていきます。

【組織の更なる可能性を引き出す】

わたしは人の持つ可能性は無限であると考えています。しかし、ただ日常生活をしているだけでは、わたしを含め、その可能性に気付けることは少ないです。しかし、我々青年会議所は様々な機会を提供し、気づきを与える団体です。「今」、先の見えない不確定な世であり、見えるものだけで物事を判断していれば、目まぐるしく変化する世で、不要な偏見や無理解といったことに陥りかねず、取り残されてしまいます。

「今」組織に必要なもの、それは多面的、多角的に物事を捉え、思考し行動に移すことができる人財です。その人財を育成していくために本年は、新たに日本が誇るポップカルチャー等も活用し楽しみながらもその中で、今までにはない別の角度から学びや気づきを得られるような取り組みを進めていきます。また自身と向き合い、今までの価値観や考え方を見つめ直す機会を提供し、そこから自身の新たな可能性に気づき、見出してもらいたいと考えます。

【結びに】

アフターコロナとよく耳にしますが、先だけを考えるのでは無く、ナウコロナ、「今」のコロナ禍の状況を考え、「今」地域には何が必要であり、我々青年会議所が何をすべきなのか。それを今一度熟考し、より良い地域となるよう全力で貢献していきたい。そして、そこに住まう人たちが皆笑顔で心から楽しめるよう、青年会議所の運動・活動を進めて参ります。

いしかわ地方の人々、ひいては次代の青年会議所メンバーがいつまでも笑顔であり続けられるように。

一般社団法人いわき石川青年会議所 2023年度委員会職務分掌

23年度委員会 ①

- ・会員大拡大&資質向上事業の開催（4月）
- ・JCIイメージ改善事業（7月）
- ・青少年の夢育成事業の開催（10月）
- ・地域社会健全育成事業（オンライン講演会）の開催（11月）
- ・卒業式並びに各種褒賞伝達式の開催（12月）

23年度委員会 ①、②

- ・新年の挨拶文と組織紹介文の発送（1月）
- ・持続可能な組織形成事業の開催（2月～12月）
- ・会員拡大活動（通年）

23年度委員会 ②

- ・広報紙創石第93号発行事業の実施（2月）
- ・広報紙創石第94号発行事業の実施（10月）
- ・卒業予定者スピーチ・出向者報告の開催（11月）
- ・例会の運営・理事会・総会の議事録作成



I.P.PRESIDENT MESSAGE

2022年度スローガン

絆 ～ひかりある未来へ～

Kiyomizu Ishii

直前理事長 石井 清瑞

新年あけましておめでとうございます。昨年は（一社）いわき石川青年会議所の第42代理事を務めるにあたり、大変多くの皆様のご理解、ご協力をいただき、いただいた担いを全うすることができましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

次なる時代に向けて我々と同様に子どもたちの取り巻く環境も目まぐるしく変容しています。子どもたちには、いつでも夢を追ひ希望で目を輝かせていて欲しい。そして未来の地域（まち）を想う若者が溢れている世界に繋がりたい。そう願うからこそ、子どもたちの未来に大きな影響を与える大人は責任を持ち行動を起こして行かなくてははいけません。そこで求められるのは我々大人がしっかり未来を見つめながら新たな社会様式に適応できる能力について理解を深め、子どもたちにより良い環境を与えて素質を伸ばして行くことだと考えました。そしてその素質は、子どもたちが自ら豊かな思考力を高めていくことで開花されます。そのためには、気安く慣れ親しんでいる今のコミュニティ

に留まらず異なる価値観や考え方を持つ人とふれ合う機会を設け、子どもたちの持つ感性を最大限に広げていく必要があります。高度に効率化されていく時代であっても、子どもたちが抱く可能性はそのまま明日の社会の豊かさとなります。新たな時代に向けて、子どもたちも、そして我々も共に輝けることができたこと感謝申し上げます。

そして、本年度は塩澤理事長を始めとする（一社）いわき石川青年会議所メンバーのサポート役として、直前理事長を務めさせていただくこととなりました。私は本年をもちまして、この長い青年会議所活動も卒業を迎えます。2015年に入会して以来、様々な機会を与えていただいた、（一社）いわき石川青年会議所に対していただいたご恩をお返しするべく、一意専心努力をしております。まずは、卒業生として諸先輩方からいただいた学びを少しでも多くの会員の皆様へ伝え、素晴らしいチカラをもつ組織となるよう努めてまいります。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年の取り組み



交通安全教室に替わる新たな事業の構築をメンバー全員で行いました。



茨城アストロブラネットス監督松坂氏を講師に招きオンラインセミナーを実施しました。



菊池委員が福島ブロック協議会委員長としてJCカップ福島県予選大会を実施しました。



いしかわオータムフェスタにて先進技術の体験事業を行いました。